

TOKYO CULTURE CREATION PROJECT

NEWS
LETTER
Vol.5

平成 24 年 3 月 6 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

子供たちと文化 ～文化による豊かな感性と創造性の育成～

東京文化発信プロジェクトでは、次世代を担う子供たちの自主性や創造性を育むことを目的に、伝統芸能と触れ合う機会やプロのアーティストと舞台作品をつくりあげるなどのプログラムを展開しています。

本ニュースレターでは、「子供たちと文化」をテーマに年度末に多数開催される子供たちが主役のプログラムを、参加アーティストのインタビューを交えながらご紹介いたします。

**CLOSE-UP①：パフォーマンスキッズ・トーキョー「おどると勇かなぼくもわたしも」
振付家・ダンサーの黒沢美香氏が語る「子供にとっての表現」**

子供たちとオリジナルのダンス作品を創作 子供にとって表現することとは・・・



氏にお話を伺いました。

ダンスや表現の可能性を追求

ー黒沢さんの活動内容を教えてください。

「黒沢美香&ダンサーズ」と「薔薇の人」という二つの公演のリーダーをやっています。「黒沢美香&ダンサーズ」では自分は出演せず振り付けのみで、「薔薇の人」では私のソロが主となり、ダンスのための表現を追求していま

す。その他にもワークショップや、コンクールに出場する人たちの振り付けもしています。ダンスを突き詰めた人、自分の可能性を探している人達と共に活動することを意識しています。

やっとなダンス教育が実現

ー中学でダンスが必修化になることについてどのように思いますか？

何かを美しいとか、楽しいと感じたり、妙に変なことにも惹かれるというような力を、どうしたら学校教育の中に入れることができるのかなと考えたことはあり、長く望んでいました。“美しい＝楽しい”と言えると思っています。そして、すべては美しくなくてはいけないと思うのです。しかし、その美しさを見つけるには、大人になってからでは遅いのではないかと考えていたので、やっとなという思いですね。

多様な生きる道を見つけるきっかけに

一他のプログラムも含め、子供たちが文化と触れ合うことについてどのように思いますか？

私が小学校二年生くらいのときに、学校で太郎冠者を見ました。大人二人が真面目に面白いことをやっていたことが、今でも忘れられません。こういうことを見るのと見ないのでは大違いだと思うのです。子供にとってはそのような生き方、そんな大人がいるのかという驚きがあるのです。

未来のある子供たちにとって、「あの感激は何だったんだろう」「あの感激にまた近寄りたい」といったことが思い出になることで、それが生きていくエネルギーとなったり、人生の選択肢を見つけるきっかけになるのではないのでしょうか。

表現をすることは勇敢である

一題の「おどると勇かなぼくもわたしも」にはどういった意味が込められているのでしょうか。

今回、「パフォーマンススキッツ・トーキョー」のお話を頂いたとき、タイトルに“勇敢”という言葉を入れたいと思いました。表現をしている人は勇敢に見えますし、勇敢じゃないと踊れません。演じている姿というのは、結局は生きている姿であり、生きている形が並ぶから感動するのです。踊りは、その場限りで消えてしまうものです。そこに立ち合うことは、その空気の温度も、密度も、一緒に浴びることなのです。

ボレロを題材とした芸術としてのダンス

一どのようなワークショップにしていきたいですか？

テレビやゲーム、パソコンなどから得られるような強い刺激の楽しさではなく、植物の成長を見守るような“楽しさ”を味わうワークショップにしたいと思います。何も無いところから、かけがえのない時間があること、かけがえのない人がいるということを感じていく機会にしたいです。芸術としてのダンスというのを

<黒沢美香 プロフィール>

5歳から舞踊家の両親（黒沢輝夫、下田栄子）のもとでモダンダンスを習う。1982～85年NYに滞在。当時のNYダウタウン・ダンスシーンをリードする振付家の作品を踊り、国内外の公演に参加する傍ら、ジャドソン・グループのポスト・モダンダンスに衝撃を受けて、帰国後日本におけるコンテンポラリーダンスのパイオニアとなって日本のダンス界を引っ張っている。

「パフォーマンススキッツ・トーキョー」おどると勇かなぼくもわたしも 開催概要

- ・日程：平成24年3月31日(土)
- ・開演：15:00 ※受付：14:00、開場：14:30
- ・会場：水天宫ピット（東京舞台芸術活動支援センター）
- ・アーティスト：黒沢美香（振付家・ダンサー）
- ・料金：入場無料 ※事前予約制、当日受付順



パフォーマンススキッツ・トーキョー
せんがわ劇場発表公演(2011年) ©鹿島聖子

探すのが自分の役目かなと思っているので、誰でもできそうで楽しい、けれども、実はどんどん奥があるというような作品にしたいですね。

音楽は「ボレロ」を題材にしようと思っていますが、「ボレロ」を踊る振り付けは半分ぐらいにして、繋ぎの部分は子供たちと一緒にモチーフを増やしていこうと思っています。例えば、指がピン！と立つポーズを「クワガタ」と名付けた方が、子供たちにとって振り付けを憶えやすく、10回のワークショップで作品をつくり上げるうえでも作業がスムーズになると思っています。そのように、言葉と動きを積極的に合わせることによって、運動神経がある人が踊るのではなく、誰の体にもダンスが備わっている、その人それぞれのダンスがあるということ、みんなで知ることができたらと思っています。子供が踊る芸術として、取り組みたいと考えています。ワークショップを通じて、子供たちと作品づくりから発表までを行うのは、私にとっても初挑戦なので、頑張りたいですね。

緊張のあとの清々しさを味わってほしい

一今回の活動を通して、子供たちに伝えたいことはありますか？

踊る楽しさと緊張の楽しさですね。知らない人に会うだけでも緊張するというのに、その人の前で話したり、踊るからには、自分をあらわにしなくてはなりません。それは、心地よいことばかりではありませんが、終わった後はなんとも清々しいですね。あの心の緩急が、表現することに惹かれる理由だと思っています。子供たちには、その感覚を体験してもらいたいと思っています。

もう一つは、一人の力とみんなの力の偉大さです。人の力というのは、二人だと二倍になるかという不思議なことにそうではなく、十倍にも何十倍にもなったりしますよね。それは、自分の個性と相手の個性を尊敬していくことを楽しむことでできてくることだと思うのです。

CLOSE-UP②：

「パフォーマンスキッズ・トーキョー」 & 「東京発・伝統 WA 感動 キッズ伝統芸能体験」

東京文化発信プロジェクトでは、平成 23 年度 3 月、黒沢美香氏も参加する「パフォーマンスキッズ・トーキョー」や「キッズ伝統芸能体験」など、キッズ・ユース事業を中心に子供たちが主役のプログラムが多数開催されています。本ニュースレターでは、上記 2 プログラムにおける発表に向けた子供たちの練習風景をご紹介します。

■パフォーマンスキッズ・トーキョー「からだからものがたり？ものがたりからからだ？」



3 月 3 日（土）に発表公演が行われたパフォーマンスキッズ・トーキョー「からだからものがたり？ものがたりからからだ？」。ダンサーの楠原竜也氏と、一般公募

で集まった 30 名の子供たちが、オリジナルの舞台作品を創りあげるワークショップの様子をご紹介します。

楠原氏は、「はじめはストーリーを重視しようと思っていたのですが、子供たちがすごく動けるので、動きを中心にしたものに変えていこうと思っています！」と、子供たちの勢いに驚いていました。参加している子供た

ちは、「HIPHOP を習っていたけど全然違う。今までやったことない動きが自然とできるので自信になる」、「ダンスの経験はないけど、毎回楽しい。」、「バレエを習ってきたので、動きに戸惑いはなかった。発表会が楽しみ。」と身体と頭を使って表現することの楽しさを実感している様子。ドラムの音にあわせたり、自分でリズムをつくりながら、リハーサル室で熱心に練習に励んだ子供たちは、「冒険者たち」というテーマの中、舞台での発表を目指して頑張っていました。



■「東京発・伝統 WA 感動 キッズ伝統芸能体験」



「キッズ伝統芸能体験」は、初めて伝統芸能に触れる子供たちが、能楽、日本舞踊、箏曲及び長唄の一流の実演家から直接指導を受け、その成果を宝生能楽堂、浅草公会堂の本格的な舞台

で発表することを目指すプログラムです。今回、取材した長唄のコースでは、29 日（木）に開催される発表会に向けて、子供たちが平成 23 年 10 月から月に 2～3 回のペースで稽古に励んでいます。

開催まで約 1 か月に迫った 2 月の小鼓の稽古では、「手を伸ばしなさい」、「声をあわせて」など先生から檄が

飛び、子供たちは馴れない楽器や正座に苦戦しながらも、みんなで「よお!」、「はお!」と大きな声を出しながら、繰り返し練習をしていました。

篠笛の稽古では、子供たちが、練習した越後獅子を披露。発表 1 か月前にして、先生を驚かせるほど上達。さらに「もっと上手く音を出したい」などの質問が出るなど、より質の高い作品を目指すべく頑張っていました。

「ここでしかできないから楽しい。本番が待ち遠しい」と、子供たちは意欲的に伝統芸能に触れ合っていました。



プログラム PICK UP!!

前項でご紹介しました、キッズ伝統芸能体験に加えて、3月に開催予定の子供たちが主役のプログラムをご案内いたします。

◆「東京発・伝統 WA 感動 キッズ伝統芸能体験」発表会

初めて伝統芸能に触れる子供たちが、能楽、日本舞踊、箏曲及び長唄の一流の実演家から直接指導を受け、その成果を宝生能楽堂、浅草公会堂の本格的なひのき舞台上で発表します。

能楽 I

- ・日時：平成 24 年 3 月 20 日(火・祝) 10:30～13:00 ※開場：10:00
- ・会場：宝生能楽堂（文京区）

能楽 II

- ・日時：平成 24 年 3 月 20 日(火・祝) 14:30～17:00 ※開場：14:00
- ・会場：宝生能楽堂（文京区）

箏曲(山田流)・日本舞踊

- ・日時：平成 24 年 3 月 28 日(水) 13:30～15:40 ※開場：13:00
- ・会場：浅草公会堂（台東区）

長唄・箏曲(生田流)

- ・日時：平成 24 年 3 月 29 日(木) 13:30～16:20 ※開場：13:00
- ・会場：浅草公会堂（台東区）



キッズ伝統芸能体験
お稽古／能楽(狂言)

■アートポイント事業

◆「イザ！カエルキャラバン！in 東京」

- ・日程：平成 24 年 3 月 11 日(日) 13:00～16:00
- ・会場：清瀬市児童センター ころぼっくる、神山公園
- ・概要：子供を中心とする若いファミリー層を対象に、震災時に必要な「知識」や「技」を身につけてもらうため、「消火」「救出」「救護」などを学べるワークショッププログラムに、美術家・藤浩志が展開するおもちゃの物々交換プログラムを組み込んだ新しいタイプの防災訓練プログラムです。

◆「アーティスト・イン・児童館」全児童自動館

- ・日時：平成 24 年 3 月 17 日(土) 10:00～17:00
- ・会場：練馬区立中村児童館
- ・概要：子供たちの日常的な遊び場である児童館にアーティストを招待し、創作・表現のための「作業場」として活用してもらうプログラムです。今回は、アーティストユニット Nadegata Instant Party が、中高生と協働で、児童館のオリジナル文化祭を創り上げ、その様子をドキュメンタリータッチの映画作品として完成させます。

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

〈この件の取材・掲載に関する報道関係の皆様からのお問合せ先〉
東京文化発信プロジェクト 広報事務局 担当:村澤・宮島・坂元・村木
〒107-0052 東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 18F
TEL:03-6675-9298 FAX:03-5572-6065 MAIL: tokyobunka@vectorinc.co.jp